えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報　第58号	２００６年5月２３日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠

1. 活動報告（事務局　記）

— ５月７日（日）今日の作業は、田植えに向けての草刈、湿地の整備を中心に行いました。
作業終了後、ビオトープ会員限定での勉強会を行いました、他では見られない、動植物にビックリの活動でした。（参加会員１３人）

— ５月２０日（土）午前中の作業は、湿地帯の整備、駐車場の草刈を行いました。
（会員２０人参加）

— ５月２０日（土）午後の里山自然観察隊は野鳥の観察でした。
隊員３４名、保護者１８名、会員１１名で、２１種の野鳥を観察しました。

２．今後の予定（事務局　記）

◎　見学者

— ４月より　ネイチャークラブが毎月ビオトープで散策活動をされます。岡田さんより（案内者不要です。）

— 子どもエコクラブの毎年のビオトープでの行事依頼（６月１０日）、案内者２～３名要望あり

◎　行事

— ６月４日（第一日曜日）の活動（従来の活動）

— ６月１７日（第三土曜日）の活動（従来の活動）
午後は里山自然観察隊の第３回目の観察活動（昆虫）

３、ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物）　美濃和　信孝
キショウブとカキツバタ

５月下旬のビオトープの湿地で一番目立つ花はキショウブです。ヨーロッパ原産の帰化植物ということで、５月２０日のエコアップ作業の際にはかなり抜き去りました。今を盛りと咲いている植物を抜き捨てるのは忍びない気がしますが、ほっておくとどんどん広がっていくのでいたし方ありません。ここで、帰化植物についておさらいしておきます。

まず、「外来種」ですが、これは明治時代以降に人間の活動によって日本に入ってきた生物種とされています。そのうち、野外に定着したものを帰化種といいます。最近、動物では「移入動物」「移入生物」ということばが使われることが多くなっていますが、植物では栽培も含めれば、移入された外来の植物は多数あるので、「帰化植物」ということばが使われるのが普通です。帰化植物の元となる外来種は、輸送技術の発達や貿易量の増加に伴い、種数、量ともに増加傾向にあるため、外来種の増加は日本だけでなく、世界的に問題になっています。このため、最近では外来種問題は、生物多様性の保全上、最も重要な課題のひとつとされ、わが国においては、外来種による生態系などの被害を防止することを目的とした「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」が２００４年に制定されました。この法律により定められた「特定外来生物種」には、ビオトープの関係ではウシガエルとオオフサモがそれに該当し、これらは、飼育、栽培、保管及び運搬することが原則禁止されています。キショウブは特定外来生物種にリストアップされているわけではありませんが、そもそも特定外来生物種に当たるかどうかの判断は侵略的であるかどうかによります。キショウブは他の場所ではそれほど爆発的に増える傾向にはありませんが、ビオトープ内においてはかなり増加し、他の植物を圧迫する恐れがある、と判断したので除去に踏み切

りました。同じ理由で、たとえ絶滅危惧種であってもアサザのようにはびこる植物は、５月２０日作業したように除去していかなければなりません。前置きが長くなりましたが、キショウブは普通の状態であればそれほど侵略的に増える種類ではなく、また他種と交雑する心配はないので、それほど気にしなくてもいいかもしれません。

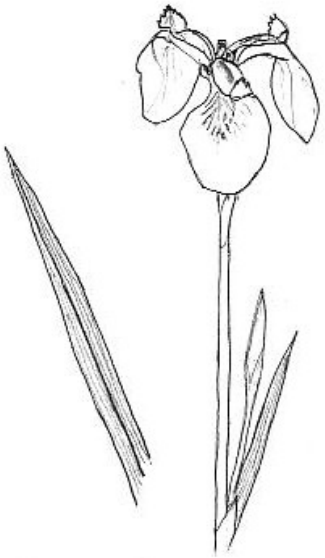
キショウブに混じって、濃い紫色の花が何株か咲いていました。調べたところ、カキツバタのようです。だれかが植えたのか、それともキショウブに混じって移植されたのかわかりませんが、こちらは５株しかありませんし、山口県レッドデータブックの絶滅危惧II類に指定されているので、大切にしていきたいものです。山口県には自生地が何個所かあり、私は美東町二反田ため池のカキツバタ群落を見に行ったことがあります。紫色のアヤメ属の花は、アヤメ、ハナショウブ、カキツバタとあり、なかなか素人目には区別が難しいものです。ここで識別点を整理しておくと次の通りです。

アヤメ　葉の中央に脈の突起がない。花びらの基部は黄色地に紫色の網目模様（＝綾目＝あやめ）。

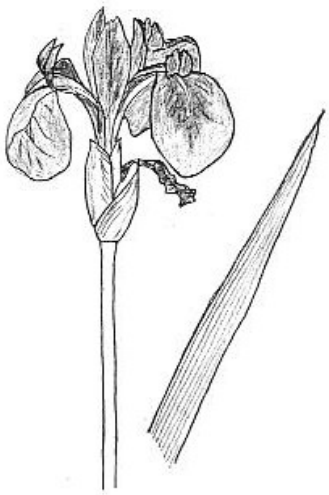
ハナショウブ　葉の中央に突起した中脈がある。花びらの基部は黄色。

カキツバタ　葉の中央に脈の突起がない。花びらの基部は白色。

花期は、アヤメ、カキツバタ、ハナショウブの順に咲いていきます。またそれぞれの生育適地は、アヤメ＝乾燥地、ハナショウブ＝湿性地、カキツバタ＝浅い水中、とそれぞれ異なります。湿地でキショウブといっしょに咲いているカキツバタは、場所的には好適です。それに黄色いキショウブがたくさんある中の紫色のカキツバタは、画竜点睛といった趣でよいアクセントになっています。



キショウブ（アヤメ科）



カキツバタ（アヤメ科）

４．ビオトープ関連　（会員の声）　　（原田満洲夫　記）

発会以後最近とみにビオトープの意義とか、エコーアップとかで、立ち上げ時の会員皆様方が、数多くの会議の中から「良い」 と判断し、近辺から掘り起こして植栽したものや、採取して放流したものが５年も経つと「悪」となってきている。「里山ビオトープ二俣瀬をつくる会」の名称についても喧々諤々で統一され何とか収まったが、ビオトープそのものの専門家から言わせれば、ビオトープとは格段の差があるとか、ではビオトープの名前を外し「里山二俣瀬をつくる会」などビオトープを外した言い方ににすれば良いのではないかとの意見も出てくる。

在来種と外来種との区切りは明治の始めが境だと聞いているが、　私個人の里山としては昭和 10 年代から 20 年代の面影がありその頃に棲息していたものであれば、「里山の生物、風景」で合格するのではないかと思う。移殖したり捕獲し活かしたものを、明治を境に一括除去するのに誠に忍びなく思う。

私の考えは私の時代の「里山」であろうか?「ビオトープ」を言える立場に無いのであろうか?と最近つくづく思う今日この頃である。

次回二俣瀬会員　金子道昭さんに願います.

５．里山自然観察隊（5月２０日、隊員３４名、保護者１８名、会員１１名）

野鳥観察

観察した野鳥　（　２０種　）

ウグイス	ツバメ	ヒバリ	ホトトギス	ヒヨドリ
セグロセキレイ	ホオジロ	スズメ	ダイサギ	カワセミ
カワラヒワ	カルガモ	トビ	ハシボソカラス	メジロ
モズ	ドバト	ハチクマ	コゲラ	チドリ sp

※　　チドリ sp（　チドリの仲間　）　チドリではあるがコチドリかシロチドリか不明

野鳥（カラス　スズメ）の名がついた植物の観察

スズメノヤリ　　スズメノエンドウ　　スズメノテッポウ　　カラスノエンドウ

前日からの雨もあがり、観察時間（１４：１０　～　１５：５０）には、太陽が顔をだす好天となった。　野鳥や植物名はカタカナ表示することを教え、野鳥の絵をみせて野鳥ビンゴゲーム紙の空欄に記入させたが、一年生ジュニア会員はできたかな？

総勢６０名が神社・畑・厚東川・田・ビオトープと移動するので長い列となり、ペース配分がかなり難しい。対象の野鳥は常に移動（飛ぶ）するので、先頭部は観察できても後ろはできなかったとか、又その逆と、幸・不幸があったがどうにか楽しめたようだ。隊員に比べリーダーが少なく、子供への説明があまりできなかったのが課題と感じた。会員諸氏の更なる生物への関心・知識の向上を促したい。

ビンゴゲームをより多く完成させたい子も多く、自分で見つけてすぐ「あれは何？」と問いかける子が多く、見つけた鳥の名を告げると、ちょっと姿を見るやいなや、紙をチェックする子も多かった。観察よりビンゴか！　俣瀬券か！　（　笑い　）

厚東川は増水により、川岸で餌を獲るサギ類が見られなかったのは納得できるが、一昨年まで昭和山で営巣していたミサゴ（準絶滅危惧種）は最近姿を見ないし鳴き声も聞かないがどうしたのだろう。私が確認したビオトープ周辺に生息する貴重種は、県指定の絶滅危惧ＩＢ類のヤマドリ、準絶滅危惧種のフクロウ・オオタカ・ハイタカ・ヤマセミ・ヒバリであるが、周辺は特に野鳥が多くもなく少なくもない普通の環境であると認識している。

しかし参考までに述べると、近くの厚東川水系にはある種の素晴らしい環境の場所がある。本邦初披露するがアオシギの越冬・コウライアイサの中継地となる場所である。野鳥を観察する専門家である、日本野鳥の会山口支部（会員５００名）のバーダー（野鳥観察者）でも、県内で両種の観察経験者は片手で余る筈である。いつまでもその環境が脅かされないことを願っている。

子供たちは自然の中で伸び伸びと振る舞い、好奇心が旺盛で、かつ賑やかな（やかしましい！）観察会であった。観察はともかく、いろいろな自然環境に触れて、少しでも自然や生物に興味を持って楽しめれば、子供達にとっても保護者にも喜ばしいことだろう。企画・担当する我々会員も然りである。

ビオトープで２０分ぐらい自由時間をとったが、子供たちは野鳥観察をさておき、水辺の昆虫や草花に夢中であった。やはりビオトープには多種多様な生物が存在してこそ、その価値があると再認識した観察会であった。

（寺森　正行　記）

６．来訪者の声　（東屋のノートより一部抜粋）

今月はありませんでした。

７．会よりの連絡事項

１）事務局長の原田さんは４月中旬より仕事のため、出張中です。予定では７月までです。その間の事務局の代行は、若林さんが行われますが、皆様のご協力をお願い致します。

８．編集後記

最近一ヶ月は、よく雨が降ります。先月の第三土曜日は雨、今月の第一日曜日は朝まで雨でした。田植えに水の必要なこの時期に雨が多いのは、稲作には良いのかもしれません。しかし、私にとっては困りものです。

私は、今月から、公共交通機関のみを利用して活動に参加したらどうなるかを試しています。第一の理由は、経済性です。また、少しでも地球温暖化防止に役立てばと思っています。ただし、常盤スポーツ広場の近くにある我が家から、最寄の駅まで歩いて二十分、木田方面に行くバス停までは四十分。雨に降られると荷物も多くなり、傘もささなければならない、足元も濡れる、最悪です。幸いにも今月の第三土曜日は、雨ではありませんでした。安堵しました。

次回、私に編集後記が回るのは、年末となります。その時には半年間の自家用車無しの体験を報告できると思います。皆さんも、一度試してみられてはどうでしょうか。私も、早起きができ、かつ気候がよければ、我が家からビオトープまで歩いてみようと考えています。

（前田　歳朗　記）